科目名「国語教養(学校設定科目:2年次)」受講生徒数「80名(2クラス展開、うち42名を担当)」

Keyword

現代の国語 実用的な文章 語彙指導 キャッチフレーズ Canva

ア 単元の目標

(ア) 実社会において表現するために必要な語句の量を増やすとともに、語彙の特色を理解し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

現代の国語〔知識及び技能〕(1) エ

(イ) 読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。

国語表現〔思考力、判断力、表現力等〕B 書くこと(1)カ

(ウ) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

イ 本単元における言語活動と教材

言語活動:読み手を想定してキャッチフレーズを作成する活動

教材:「既存のポスター、Canva テンプレート」

教具:「Canva(Google アカウントを紐づけて利用可能)」

※〔知識及び技能〕や〔思考力、判断力、 表現力等〕の後にある記号は、学習指導 要領「第2款 各科目」の「2 内容」の 参考とした指導事項の記号を指す。

ウ 単元の評価規準

	知識・技能等	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
Α	実社会において表現する ために必要な語句の量を増 やすとともに、語彙の特色 を理解し、文章の中で使う ことを通して、語感を磨き 語彙を豊かにすることがで きる。(1) エ	読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるような語彙を選択できているかを吟味して、キャッチフレーズの内容を推敲したり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉えて文章の改善に生かすことができる。B(1)カ〔国語表現〕	ポスターにキャッチフレーズを付ける活動を通して、語彙を豊かにするとともに、伝えたい事柄を明確にし、自分の考えや事柄が伝わるよう表現の仕方を粘り強く考える中で、自らの学習を調整し、自身の社会性を最大限養うことができた。
В	実社会において表現する ために必要な語句の量を増 やすとともに、語彙の特色 を理解し、文章の中で使う ことを通して、語彙を豊か にすることができる。	読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるような語彙を選択できているかを吟味して、キャッチフレーズの内容を推敲したり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。	ポスターにキャッチフレーズを 付ける活動を通して、語彙を豊かに するとともに、伝えたい事柄を明確 にし、自分の考えや事柄が伝わるよ う表現の仕方を粘り強く考える中 で、自らの学習を調整し、自身の社 会性を養おうとしている。
С	実社会において表現する ために必要な語句の量を増 やすとともに、文章の中で 使うことを通して、語彙を 豊かにすることが不十分で あり、努力を要する。	読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるような語彙を選択できているかを吟味して、キャッチフレーズの内容を推敲することが不十分であり、努力を要する。	粘り強い取組を行おうとする側面ならびに自らの学習を調整しようとする側面のどちらも不十分であり、努力を要する。

※[主体的に学習に取り組む態度]は 粘り強い取組を行おうとする側面 自らの学習を調整しようとする側面 をそれぞれ評価する

エ 指導と評価の計画(全6時間)

次	学習活動	指導上の留意点等	評価規準・評価方法等
一次(二単位時間)	○単元の目標や単元の全体を確認して、学習の見通しを持つとともに、キャッチフレーズの効果について理解する ○語彙によって与えるの違いがあることや、読み手レーズを考えるとやがあることを考えるとでも関をである【情報の収集】 ○既存のポスターを活用し、そこに付け加えるキャッチ るに付け加えるキャッチ るとを理解する【情報の収集】 ○既存のポスターを活用し、そこに対して、表現方法について理解を深める【整理・分析】	 ○本単元の全体を伝え、実際のポスターを提示して、広告におけるキャッチフレーズの効果について考えさせる ○語の種類(和語や漢語、カタカナ語、造語)や表現技法(押韻、擬人法、パラルビ等)によって印象が異なることを伝える。 ○視覚情報と結びつけてキャッチフレーズを決定することの重要さを観点に、効果的なキャッチフレーズを作成させる ○相手意識を持って表現を選んだり、様々な語彙で表現できることの大切さを伝える 	 (知識・技能) Group Work →語の種類や表現技法、相手意識を踏まえたキャッチフレーズを考案して提示する ●語彙の選択や表現技法について、理解が深まっていない学習者を見取り、助言を行う
二次(二単位時間)	○ これまでの学チリーででででするででででする。 まれて理解動きとかりについまでのできません。 まれては、まれては、まれては、まれては、まれては、まれては、まれては、まれては、	○既存のポスターを提示しながら、記想で学習してきた内容を見いいるできたの容を見いてきた内容を可能した。また、「Canva」の時によっていいがある。また、「Canva」の時によってでするです。では、以降されてもして、では、では、ないでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	「思考・判断・表現」 Group Work → はじめに 提示を された 記を がった では である とった である では でなり でない スデザー がった でない ない でん
三次(二単位時間)	○これまでの授業内容を振り返り、表現や構成の工夫について整理するとともに、キャッチフレーズを作成する既存のポスターの情報を整理する【課題の設定】【情報の収集】	○前時の振り返りを行うとともに、表現の工夫における具体的な方法について確認して、キャッチフレーズを作成する既存のポスターと読み手の条件を提示する (ポスター3種、読み手条件2種を用意)	〔思考・判断・表現〕Solo Work ●学習者が考えたキャッチフレーズは既存のポスターの情報や読み手の条件を踏まえたものかどうか、聞き取りを行う中で確認および助言を行う 〔思考・判断・表現〕Solo Work

返って、:	キャッチ	フレース	ズを
作成する	【表現】		

- ○キャッチフレーズ作成後に 学習者全体で検討を行い、他 学習者からの助言を踏まえ ながら推敲および改善を行 う
- ○作成したキャッチフレーズに関する工夫点や改善点をまとめる【整理・分析】
- ○単元の振り返りを行う【まとめ】

- いて適宜ヒアリングを行い、その表現が意図的なものかどうか確認する
- ○多角的な助言を得られるようにグループを編成する。また、助言をCanva 上に記載するように伝える。観点は次のとおり
 - 1_メッセージ性が伝わる
 - 2_表現上の工夫が効果的である
 - 3 相手意識を持てている
 - 4_意図と表現が一致している
- ○学習者が作成したキャッチフレーズに関する工夫点や改善点を Forms で提出するよう伝える
- 〇単元全体のポイントを再度整理する

- ◎作成されたキャッチフレーズから、条件に応じた表現や相手意識をもった表現を、読み手からの助言を踏まえて推敲および改善できているか確認する
- [知識・技能] Solo Work
- ◎作成されたキャッチフレーズに関する工夫点や改善点の記述を確認し、語の種類が与える印象の違いなどについて理解しているか確認する
- 〔主体的に学習に取り組む態
- 度〕Reflection Sheet
- ◎学習した内容について振り返り、身に付けた能力を今後 意識的に活用できるかどうか確認する

※ ●は形成的評価(指導に生かす評価) ◎は総括的評価(記録に残す評価)を示している。

オ 学習指導案(5時間目/6時間中)

科目名	国語教養 単元名 (学校設定)	 読み手に情報を効果的に伝えられ 	1るポスターを	と作成する(B 書くこと)		
本時の 目標		ているかなどを吟味して、文章全体 長や課題を捉え直したりすることが				
本時で取り	■読み手を想定してキャッチフレーズを作成する活動					
上げる主な	→自身が作成したポスターおよびねらいや工夫を伝えるとともに、他者からの助言を踏まえて、キャ					
言語活動	<u>■語活動</u> ッチフレーズの内容を推敲および改善すること					
教材	既存のポスター、C	anva テンプレート 実施対象		2年次「国語教養」選択者(80名) 2クラスで実施、本クラスは42名		
本時におけ	本時の評価の観 点	本時の評価規準		本時の中心的な評価方法		
本時におり る評価の観 点、評価規 準、評価方 法	思考力・判断力・ 表現力 等	読み手に対して自分の思いやまに伝わるような語彙を選択でき、味して、キャッチフレーズの内容の、読み手からの助言などを踏らの文章の特長や課題を捉え直しる。	ているかを吟 容を推敲した まえて、自分	Solo Work ●作成されたキャッチフレーズから、条件に応じた表現や相手意識をもった表現を、読み手からの助言を踏まえて推敲および改善できているか確認する		
学習活	動(言語活動)	指導上の留意点		評価の実際		
り返り、	<u>分)</u> での授業内容を振 表現や構成の工夫 て整理する	○前時の振り返りを行うととも(夫における具体的な方法につ(【評価の観点】 〔思考・判断・表現〕Solo Work ●学習者が考えたキャッチフレー ズは既存のポスターの情報や読		
	チフレーズを作成	○キャッチフレーズを付け加える既存のポス		み手の条件を踏まえたものかど		
	字のポスターを把握	ターと読み手の条件を提示する。作業は個		うか確認および助言を行う		
	それに関する情報を3【課題の設定】【情	人で実施させるが、相談を行う 一課題を担当するグループを		【評価方法】 「学習者へのヒアリング」		
置埋 9 で	る「味趣の政化」「旧		又圧してのく	「子百日へいにどりノン」		

報の収集】

(ポスター3種、読み手条件2種を用意)

本時における【問と課題】

「読み手に対して効果的に訴えかける表現とはどのようなものか。その具体として、先に挙げたポスターに付け加えるキャッチフレーズを作成しなさい」

展開① (15分)

- ○これまでの取り組みを振り返って、提示された既存のポスターに対するキャッチフレーズを個人で作成する【表現】
 - (6分→3分相談→6分)
- ○個人で作成したものにつ いて、同課題を行う学習者 に相談する
- 〇キャッチフレーズの作成状況について適宜 ヒアリングを行い、その表現が意図的なも のかどうか確認する。学習者の作成手順は 次のとおり
 - 1_質にこだわらず量を確保
 - 2_条件に適したものを複数選定
 - 3 作成意図や特長を整理して推敲
 - 4 最も良いものを選定

なお、自分の思いや考え (主題) については 各学習者自由に設定させる

[知識・技能] Solo Work

●作成されたキャッチフレーズに 関する工夫点や改善点の記述を 確認し、語の種類が与える印象の 違いなどについて理解している か確認する

【評価方法】

「Canva に残されたコメントの 確認」

展開②(15分)

○キャッチフレーズ作成後、 完成したものを「Canva」 上にアップロードして全体 に共有し、検討を行う

- ○学習者の状況(既存のポスターの種類や学習段階)を踏まえて、多角的(特長や課題に対して)に助言を得られるように検討を行わせる。同じポスターを扱ったものに優先的に助言するよう伝える。助言の観点は次のとおり
 - 1_メッセージ性が伝わる
 - 2_表現上の工夫が効果的である
 - 3 相手意識を持てている
 - 4_意図と表現が一致している

これらの観点をもとに三段階の絵文字で点数をつける。助言は Canva 上に記載するように伝え、全ての作品に助言がついている状態になるよう留意させる

〔思考・判断・表現〕 Solo Work

●作成されたキャッチフレーズから、条件に応じた表現や相手意識をもった表現を、読み手からの助言を踏まえて推敲および改善できているか確認する

【評価方法】

「Canva に残されたコメントを 受けた変更点の確認」

展開③(10分)

- ○検討会で得られた助言を もとに、再度自身の課題を 捉えてキャッチフレーズ を考える【整理・分析】
- ○得られた助言の中に課題に関する指摘がない場合や、変更がなかった場合でも、助言の内容をどのように受け止めたのか、次時に提出する Forms にまとめるよう伝える

まとめ(5分)

- ○他学習者からの助言を踏まえながら推敲および改善 を行う【まとめ】
- ○学習者が表現の改善を行った際には、その 修正履歴を残すように伝える。この時間で 完成させるのではなく次時へ持ち越し、完 成している学習者については、別のポスタ ーおよび条件で作成させる

※ ●は形成的評価(指導に生かす評価) ◎は総括的評価(記録に残す評価)を示している。

力 評価問題 等

本単元における各観点を見取るための評価対象と判断規準のポイントについて記載する。

(ア) 〔知識及び技能〕 「語の種類や表現技法に対する理解の把握」

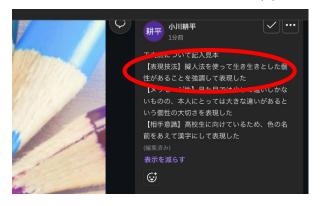
「実社会において表現するために必要な語句の量を増やすとともに、語彙の特色を理解し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる」という目標については、評価対象の学習者が Canva に残した工夫点の記述内容から見取る。三次にて作成したキャッチフレーズの内容が一次で学習した「知識及び技能」を踏まえているかどうかを確認して評価を行う。

これらの内容については、語の種類や表現技法によって与える印象の違いがあることを一次に講義形式で伝達する。板書の代わりに用いたスライド資料の一部を右に掲載した【図1】。和語や漢語、カタカナ語、造語がそれぞれ与える印象の違いや様々な表現技法を意図して使ったキャッチフレーズを作成できていることを観点にして、効果的な活用ができているかどうかを評価する。形成的評価としては単元を通じて一二次におけるグループ活動で適宜声掛けを行い「知識及び技能」を活用するよう意識させるとともに、学習者の理解を深める。最終的には三次にてキャッチフレーズを個人で作成してもらうが、Canva上にどのような「知識及び技能」を使ったのかという工夫点を明記させる【図2】。これを記録として残すことで総括的評価を行っていきたい。



図2

図1



評価「B」に達していると判断するポイント

三次における個人活動では、与えられたポスターや条件に対するキャッチフレーズの作成を行うが、これについて複数のアイディアを適切な「知識及び技能」を示しながら作成できていることを観点とする。評価対象の学習者が伝えたいメッセージ性を効果的に伝えられる語の種類や表現技法を工夫点として明示することができていればB評価として判断する。

評価「A」に達していると判断するポイント

B 評価の様子に加えて、他の学習者が作成した内容についても的確な助言を行えていることを観点とする。 Canva 上に残された助言のうち「知識及び技能」に関する記載を確認し、語の種類が与える効果に触れたり、表現技法の特徴について触れたりしながら的確な助言が行えている学習者を語感が磨かれている A 評価として判断する。

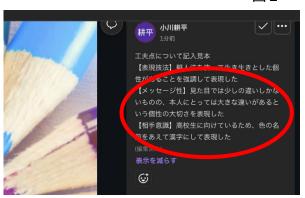
「努力を要する」状況(C)と評価した学習者に対する指導の手立て

Canva 上に工夫点に具体的な「知識及び技能」に関する記載がない学習者を C 評価として判断する。この学習者に対する指導の手立てとしては、一次における講義資料を提示しながら伝えたい内容に適したものを確認する個別指導を実施する。語の種類や表現技法が与える印象の違いについては、Classroom に資料としてアップロードしているため、その資料を提示しながら効果的なものは何かを当該学習者に考えさせたい。

(イ)〔思考力・判断力・表現力〕「作成されたキャッチフレー ズの分析」

「読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるような語彙を選択できているかを吟味して、キャッチフレーズの内容を推敲したり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉えて文章の改善に生かすことができる」ことについては、学習者に Canva を活用してキャッチフレーズを作成させて、その内容をもとに評価を行う。前項で提示した「知識及び技能」を活用して伝えたいメッセージ性を効果的に表現したキャッチフレーズを作成およびその特長を工夫点として整理できているかどうかを観点にして評価する【図2~】。

図2′



北海道伊達開来高等学校 学習計画

その工夫点としての整理に加えて、他の学習者による検討や助言を踏まえて、自身の文章を改善できたかどうかをもう一つの観点として評価する。形成的評価としては、メッセージ性を詳細にさせていく声掛けを中心に行っていきたい。作成したキャッチフレーズに明確な意図があり、効果的であるかどうかが観点となるため、伝えたい内容がぼんやりとしていては工夫点として整理することができないと考えられるため、この作成意図について明確になるような声掛けを行っていきたい。三次5時間目にて作成したキャッチフレーズに寄せられた助言をもとに、6時間目ではキャッチフレーズを改善させるため、それを最終的な作品として総括的評価を行っていきたい。またその際には、助言を受けた変化が分かるように、前後どちらの作品も残すように学習者へ伝える。

評価「B」に達していると判断するポイント

三次における個人活動では、与えられたポスターや条件に対するキャッチフレーズの作成を行うが、これについて自身の作成した内容に関する複数の工夫点の整理ができていることを観点とする。メッセージ性が適切に表現されていることや相手意識が明確に感じられることができていれば B 評価として判断する。

評価「A」に達していると判断するポイント

B 評価の様子に加えて、他の学習者によって与えられた助言を踏まえて、自身の文章における特長や課題を捉えて改善に生かすことができていることを観点とする。三次6時間目に作成した助言を受けた後のキャッチフレーズを確認して改善されているものをA評価として判断する。もし、改善点がない場合については、さらに別条件でのキャッチフレーズを作成させ、複数適切な提示が出来たものをA評価として判断する。

「努力を要する」状況(C)と評価した学習者に対する指導の手立て

Canva 上に記入された工夫点が具体的ではない学習者を C 評価として判断する。この学習者に対する指導の手立てとしては、メッセージ性を詳細にするための問答を個別指導として実施する。語の種類や表現技法の選択は伝えたいメッセージ性が詳細になって初めて工夫として表出される。ポスターから感じ取ったことをまとめるのではなく、そのポスターを活用して何を伝えたいのか、その内容について当該学習者に考えさせたい。

(ウ) ①〔主体的に学習に取り組む態度〕「グループワークの分析」

〔主体的に学習に取り組む態度〕のうち、粘り強い取組を行おうとする側面である「①自分の考えや事柄が伝わるよう表現の仕方を粘り強く考えようとしている」様子については二次に実施するグループワークにおける学

習者の取り組みから評価していく。二次におけるグループ ワークでは、質より量としてアイディアを数多く出す活動 を実施する。その際に、他の学習者任せにするのではなく、 粘り強く考える様子を見取って評価していきたい。

(ウ)②〔主体的に学習に取り組む態度〕「振り返りシートの分析」

「主体的に学習に取り組む態度」のうち、自らの学習を調整しようとする側面である「②自らの学習を調整し、自身の社会性を養おうとしている」様子については単元終末に実施する振り返りシートの内容から評価していく。「単元内容に対する理解」および「学習を終えた自身の変化」についてはチェックボックスでの記入として、それぞれ4分類に限定した【図3】。このチェックの組み合わせに対して、「3 具体的な記述」の内容を確認して、自己調整が適切に

13 具体的な記述」の内容を確認して、自己調整が適切に 実施されていたかどうか、もしくは今後の調整として必要 なものは何かを述べられているかどうかを分析して評価す る。

「主体的に学習に取り組む態度」はこれら①②二つの側面をそれぞれ評価し、どちらも最大限努力したものを A 評価、不十分なものを C 評価、それ以外を B 評価とした。

【図3】振り返りシートの学習者作成文例

